

危険物の部競技要領

1 基本事項

- (1) 人 員 1チーム1名
- (2) 出場順位 各チームの代表者による抽選にて決定する。
- (3) 準備品 手袋（材質は問わない、軍手でも可）※1
ヘルメット※2

事務局準備品 消火器（水消火器10型）2本

※1※2について、無い場合は事務局が貸出します。

(4) 審査

ア 計時は、消火活動等の所要時間を100分の1秒まで計測する。

イ 所要時間は、スタート合図の警笛から火点の標的を倒し、ゴールラインに入ったときまでを計測する。

ウ 所要時間1秒につき1点の減点。所要時間減点と審査減点を合計し、持点200点から合計点を引いた点数を得点とする。得点の大なるもの優位とする。

エ 同点の場合は、審査減点の少ない者を優位とする。

2 協定事項

(1) 競技開始前

競技者はヘルメット、手袋を着用する。

(2) 危険物漏洩処置（配管）

ア 配管からは危険物と仮定した水が流れ出ており、バルブを完全に閉鎖することで流出が止まる。

イ 危険物受皿に溜まった危険物（水）は、こぼさないように危険物処理容器に入れること。また処理済の危険物受皿をもとの位置に戻す際、受皿が倒れても置き直せば減点の対象としない。

(3) 危険物漏洩処置（一斗缶）

倒れている危険物一斗缶は蓋の部分が上になるように立てること。また起こした後に再度倒れた場合は、倒れた直後に立て直せば減点の対象としない。

(4) 危険物漏洩防止（土のう）

ア 土のうは1つの重さが男子は10kg、女子は5kgのもので、土のうを置く位置はラインで表示する。

イ 土のうの持ち運びは手を使い、搬送方法は自由とする。

ウ 土のうは隙間なく置き、位置修正は水消火器を持つまでとする。

(5) 初期消火（水消火器）

ア 水消火器を使用する際、消火ラインを踏んではならない。

イ 標的は水があたると倒れて、消火が表示されるもの3枚を使用する。

ウ 消火器設置場所には水消火器が2本準備されており、2本同時に搬送してもよい。1本目で標的を全て倒せなかった場合は、2本目の水消火器を使って標的を倒す。

エ 消火器を消火器設置場所へ戻す際、消火器は立てた状態で置き、設置場所ラインから出てはいけない。倒れても起こせば減点の対象としない。

3 減点項目

- | | |
|----------------------------------|------|
| (1) バルブを完全に閉めて危険物の流出を止めなかった | －5点 |
| (2) 危険物受皿に溜まった危険物（水）をこぼした | －5点 |
| (3) 危険物一斗缶を要領どおりに起こさなかった | －5点 |
| (4) 土のうを指定場所へ要領どおりに置かなかった | －5点 |
| (5) 消火ラインを踏んだ | －5点 |
| (6) 火点の標的を全て倒さなかった | －10点 |
| (7) 水消火器を消火器設置場所内に要領どおりに戻さなかった | －5点 |
| (8) その他動作を省略した（タイムに関すること） | －5点 |
| (9) 競技中に転倒した（両手や尻もちをつくなどの明らかな転倒） | －10点 |

4 服 装

動きやすい服装とし、長袖が望ましい。

危険物の部 実施要領

実施項目	実 施 要 領
待 機	係員の指示により、操作員はスタートラインで待機する。
競技開始	係員の警笛の合図によりスタートする。
危険物漏洩処置 (配管)	<p>操作員は通路内に設置されている配管からの危険物流出を防止するため、配管バルブを手で完全に閉める。</p> <p>バルブを閉めた後、配管下の危険物受皿にたまった危険物を危険物処理容器に入れ、フタを閉め、受皿をもとの配管下の位置に戻す。</p>
危険物漏洩処置 (一斗缶)	<p>倒れている危険物一斗缶を手で起こし、土のう置き場に準備されている土のう 4 個を一斗缶の周囲に置かれている土のうの隙間に入れ、危険物の流出を防止する。土のうは結び口が上で、土のう同士が接触し、かつ地面に接地するよう並べる。</p>
初期消火 (水消火器)	消火器設置場所に準備されている水消火器で、火点となる 3 つの標的を全て倒す。
競技終了	水消火器を消火器設置場所に全て戻した後、通路を戻り、ゴールラインを通過した時点で競技終了とする。

危険物の部 設定図

